

高大産連携による英語・ビジネス教育の融合

～バイリンガル・ビジネスリーダーの養成～

【取組の概要】

本取組は、日本にいながらにして英語「で」経営学を学び、国際環境で活躍できるバイリンガル・ビジネスリーダーを養成する本学経営学部国際経営学科の教育カリキュラムと高等学校英語教育・企業等の研修制度のブリッジングを行なうことにより、本カリキュラムの実効性と本学の「学士力」を高め、社会のバイリンガル・ビジネスリーダーの育成の要請に応える「高大産連携モデル」を構築することを目指す。

立教大学経営学部は2006年度の創設以前に、専門教育を英語で展開している国内の高等教育機関、イマージョン教育を実践している海外の大学を視察し、これらのノウハウを吸収するとともに、プログラムの運用方法（カリキュラムの開発等）および指導体制の確立を目指した「バイリンガル・ビジネスリーダー・プログラム（BBL）」を**Planning**した。2006年度に本学科が開設されて以降、**BBL**の運用を開始し、2007年度後期からは英語による専門科目の講義が一部開始され、これまで2年間、**Doing**のフェーズを経験した。これと並行して、外部試験による学生の英語力の伸長度の測定、学部内での点検・省察を繰り返し行い、2年間の**BBL**の活動および効果を**Checking**した。これらの結果、日本の高等学校で英語教育を受けた学生を、入学後1年半で英語「で」専門科目を学べるように力を育成するには、アドミッション・ポリシーの抜本的改革等を通して入学者の英語能力の質を高め、**BBL**の教育内容に社会的ニーズをさらに反映させることにより、これまで以上に社会の要請に応える改革が必要であるなど、改善すべき点があることを認識した。

そこで本学科では、2008年度以降、本学部が授与する「学士号」が保証する学習成果（**Learning Outcomes**）と学習環境におけるカリキュラム改革・指導法改善をさらに図り、英語で経営学を修得した「学士（経営学）」の実効性を高めるために、高大産連携による**BBL**改革（**Action**）を行う。本取組は、この**Action**を具体的・実質的・体系的に推進するものであり、今後3年間（2008～2010年度）に、主に以下のことに取組む。

指定校入学者選抜実施校および本学部受験者が多い高等学校、バイリンガル・ビジネスリーダーを必要とする企業を中心に「**BBL**教育研究会(仮称)」を設置し、高大産連携による英語教育・ビジネス英語教育、キャリア・ディベロプメント、ビジネスリーダーシップ・トレーニングに関する教育手法の研究・実践を行なう。

<連携活動計画>

- ①高等学校英語教育における授業法、企業における研修法、本学**BBL**カリキュラムの実践活動に関する研究と教材開発、相互助言
- ②**BBL**新規科目<英語・企業人セミナー（仮称）>の協働運営（英語による授業担当としてのビジネスパーソンの登用などの協働運営）
- ③本学**BBL**の点検評価を行なう「外部評価委員」としての高校教員・企業人の参加。
- ④高等学校英語教員及び企業等の実務家を対象とした「高大産連携ワークショップ」などの開催
- ⑤英語による専門教育の教育内容等に関する情報を随時知らせる「**BBL**ニューズレター」の発行、ICTなどの活用による「情報共有」
- ⑥入学後の学習成果・追跡調査に関する高等学校側へのフィードバック